

## こわい刀のはなし

昔々、ある大きい家のば様が死んだずもな。四十九日も過ぎたので、ば様の物を息子夫婦が片付けたず。そしたら長持の中から刀が出てきたず。それもそれ、刀の鞘ごと荒縄でぐるぐる巻かれていたずもな。

息子夫婦はその刀をじ様に見せせず。そしたらじ様は「これ、俺の刀だ。若い時盗まれた刀だ。なんど、ば様が隠していだのが、それにしても荒縄でしばって」と、云いながら荒縄をほどいてさやの中から出したら刀は少し錆びていだったず。そこで刀屋さ持つて行って、刀のさびを取ってもらうことにしたず。

さて、息子が刀屋へ持つて行ったら、なんと主が「この刀は名刀だよ、売れば家一軒建つよ」と云ったず。さあ、息子は「我が家に家一軒も建つほどの宝物がある」と大喜び。何をしかしても、最後にはこの刀を売って始末が出来ると思った息子はそれからだんだん気が緩み出して、



表紙 素材礼讃 丹念

vol. 110 February 2026

### contents 目次

- 05 YOKOGAO 拝見
- 06 ランチ情報
- 10 八戸えんぶりガイド 2026
- 13 タウンウォッチ
- 14 ショッピング情報
- 15 ビューティー情報
- 16 野菜歳時記
- 18 はちのへ TAKEOUT Gourmet
- 20 食のまち・八戸応援食事券
- 21 歓送迎会情報
- 30 プレゼント & クーポン

### ホームページ・インスタ公開中！

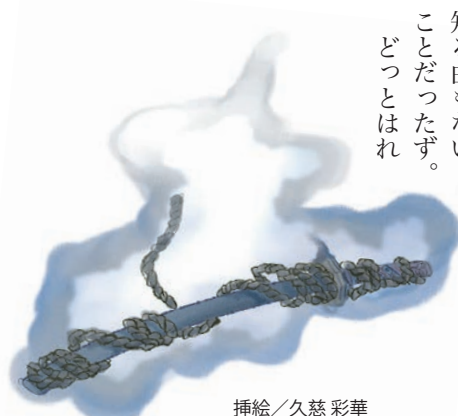
パソコン  
<http://www.webwell.jp>  
ケイタイ  
<http://www.webwell.jp/mobile/>  
インスタグラム  
[@hachinohe.well](https://www.instagram.com/hachinohe.well)



百姓仕事に精が出なくなつたず。そして、夜な夜な町き出かけては酒を呑んだり女ごと遊んだり、と夫婦げんかが絶えなくなつてきたず。そんなある日、床の間に飾つておいた刀がなくなつていたずもな。息子が「親父、刀がなくなっているが、どこがへ隠したのか？」と聞いたたら「売ったよ」と云つたず。「なんど？あれは家一軒も建つほどの名刀だよ、なんばに売ったのだ？」「なんもあれは名刀ではない。魔刀だ。欲しい人に二束三文で売つてやった」と云つたず。もう、息子はガクツと力を落としてしまつたずもな。

そしたらじ様が「実はな」と語り出したず。俺が若かつた頃、俺もお前と同じでこの名刀があればいつでも大きな金に変えることが出来る、と、所帯を持った時は遊び呆けたもんだ。ところが突然その刀を盗まれてしまつたのだ。今にして見れば嫁のばあさんが隠してしまつたとは気が付かず「刀を盗まれた、刀を盗まれた」と泣いたもんだ。

ところがその事件からしばらくたつたある日、風体の悪いじ様が寄つて来てな、俺に言つたんだ。「ほい、あん様よ、刀盗まれたつてそれば良がつた。あれは名刀じゃなくて魔刀だよ。あの刀は昔ある侍が妻にするに云つていた遊女にあぎてしまつて、一刀のもとにその遊女を切り捨てたんじや、その遊女の魂がそれを恨んでその刀の主の侍を破滅させてしまつたんだよ。それからというものの、この刀を手にした者は次々に破滅したり家が没落したりと、散々な目にあうことになつてしまつたんだ。ほら、このわしだつて大棚の息子だつたんだよ、それがあの刀を手にして遊んだ挙句はこのさまで、今は橋の下で暮らしているんだ。あの刀は名刀ではなく恨みのこもつた魔刀だ。盗まれて良かったんだ。今頃盗んだ人に災いがあつてい



挿絵／久慈 彩華

るべ、くわばら、くわばら」と云つて、いなくなつたんだ。若い頃のば様はそれを知つていて盗まれたと云つてその刀をわしの前から隠してしまつたんだ。それも魔力が出ないよう荒縄でしばつてな。それが今、お前にも出そうだったから二束三文でもほしい人に刀を売つたわけじや」。

息子はその話を聞いて、もう少しでその名刀の魔力にかかる所だったと反省したず。したども、あの魔刀を買った人の行く末はどうなるのさべ？

知る由もないことだったず。

どつとはれ